

地域移動環境計画(統合交通計画)の策定と 自転車施策・公共交通施策の複合的取組

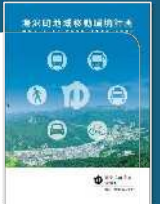
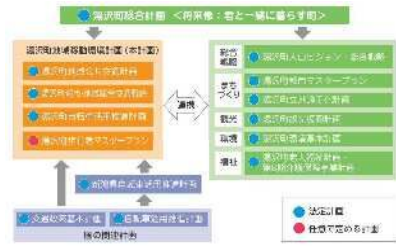
田村雅彦/南雲一也/笛田利広/田村翔/平賀大裕(湯沢町)
諸星賢治((同)Modip) 高野葵/小美野智紀((株)ドーコン)

- 湯沢町は年間360万人の来訪がある観光地(冬に3/4が来訪)。近年訪日外国人観光客も増加。
- 町内の公共交通網は人手不足もあって廃止や減便が相次ぎ、また交通空白域が面的にもまた時間帯の空白も含め発生。
- 観光客の二次交通の不足が潜在的な不満につながるとともに、町民の生活利便性も大きく低下。
- 町内では自転車はほとんど使われておらず、国勢調査(R2)の利用交通手段では自転車利用者は51人(通勤・通学)。
- 観光客の送迎などが高齢化が進む観光産業にとって重荷。観光が主産業の町の大きな課題。

➡ 持続可能な交通網(=移動環境)の確保・整備が必要

2023年(令和5年)3月に「**湯沢町地域移動環境計画**」を策定

- 「地域公共交通計画」と「自転車活用推進計画」を統合し、町内の移動全体の計画として策定
- 立地適正化計画をベースにサービス水準を目標として設定し、多様な主体と交通を包含した**SUMP(Sustainable Urban Mobility Plan)型**の**統合交通計画**として策定(具体的な目標としてのサービスレベルの提示、KPIの設定)



具体的施策(一部)

- ✓ 送迎バスの活用によるサービス水準引き上げ
- ✓ シェアサイクルなど新たなモビリティによる移動サービスの提供
- ✓ 居住誘導区域内のサービス向上に**自転車を含めた指標を提示** など

↓ 計画を踏まえ様々な事業を実施

公共交通と自転車計画の一体化による複合的な取組の促進

① 自転車ネットワーク路線の整備



矢羽根型路面表示の設置

- ✓ 町内の自転車ネットワーク路線について、サイクルルート(モデルルート)指定区間から優先的に通行空間整備を実施
- ✓ 交通量の多い幹線道路を避けたルート設定

③ 居住誘導区域を巡る町内循環バスの実験運行



サイクルバスの実施

- ✓ 土休日の交通空白域の解消(時間帯空白)
- ✓ 居住誘導区域内の高密度・高頻度化(サービスレベル目標達成)
- ✓ **自転車の搭載を無条件で可としたことで利便性向上(サイクルバスは計画に明記)**

② レンタサイクルの利用状況把握



レンタサイクルの行動解析

- ✓ 町内の観光レンタサイクル利用者にGPSログ記録に協力してもらい、行動解析を実施。
- ✓ 移動の実態を把握

④ シェアサイクルの導入検討



シェアサイクルのデモンストレーション

- ✓ 中心市街地(駅前・温泉街)などでの試験的な運用に向けたデモンストレーションの実施

これから

- 公共交通と一体となった交通空白の改善。
- ✓ 観光客・町民にとって利便性の高い交通網を公共交通と自転車の連携で形成
- カーゴバイク等多様な自転車の活用による、利便性の高い地域交通網の形成
- 公共交通との連携をさらに図るための拠点整備を検討
- ✓ カーゴバイクは町内で試乗会を実施。
- ✓ 公共交通の実証実験に合わせた「トランジットセンター」(モビリティハブ)の設置などにより拠点整備をさらに検証



町内におけるカーゴバイク試乗会



モビリティハブの形成

期待効果と課題

- 自転車の活用により交通関連人材(運転手、運行管理者)の不足、また観光担い手不足の解決に寄与できる。
- ✓ 町内の様々な輸送手段(大規模音楽イベントやスキー場、宿泊施設の送迎バス等)の活用
- ✓ さらに自転車を加えることで、端末の拡充による利便性の高い交通環境を形成
- 持続可能な移動環境確保と観光産業の展開。
- ✓ 観光自主財源などの検討
- ✓ バス事業のエリア一括事業の導入
- ✓ 協議運賃によるゾーン運賃制度など持続できる形での実施をさらに促進
- ✓ シェアサイクルと公共交通の有機的な連携



公共交通連携のイメージ(AIイラスト)